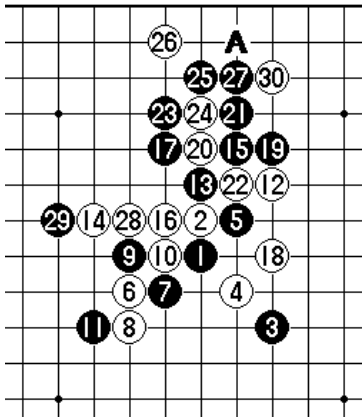




井上君は4年前の世界戦でもQTを通過したが、12位で終わっている。今回も見事QTを通過したのだが残念ながら12位で終わった。だが、最終的に勝ち点は増やしている。

実は本局は黒23を24と打って黒勝ちがあった。ついついノリ手を切りたくなくなるが、ノリ手を打たれても黒勝ちがある。最後は三々禁が受からない。

黒 岡部 白 芦海  
白 30 以下満局

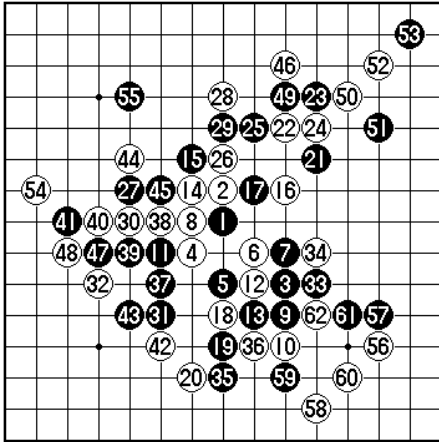


この頃になると好不調がはっきりしてくる。首位に立った芦海はマークされて

はいいるが、対戦相手も負けたくないので満局が増えてくる。岡部君も満局なら御の字と言った感じなのだろ

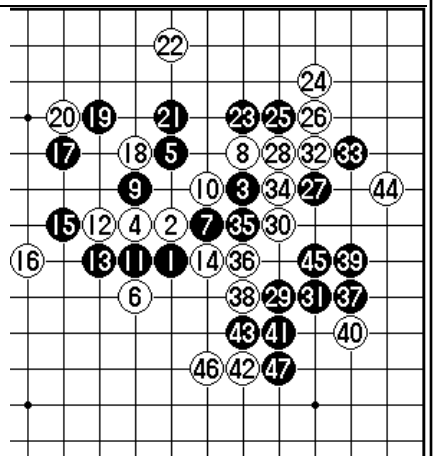
黒5、白6の作戦も挑戦手合いで打たれたのでよく知られている。驚いたのは、黒27までの両勝ちの形を白28の四ノビ一本で凌いだことである。これでAの四三は受かっている。

黒 中山 白 芦海  
白 62 にて満局



中山戦を見ていこう。まともや遊星、白4である。

これで大会を通せるのも凄いことである。ただ、何局も打つと当然相手の方も研究してくる。最後の方には結論みたいな打ち方をされることが多い。黒21は中山君が自信を持って打ったと思うが、白26の止めが強かった。以下、黒は勢力を潰して防ぎに回ることになった。黒33はここで勝とうと言う訳ではなく、黒35と打って防ぎの足しにした結果だ。結果は満局だが、黒の方が大変だっただろう。結果的には優勝した芦海は日本勢に対し2勝2分だった。この成績では優勝も当然だろう。取りこぼしもなく、最終局を待たずに優勝を決めている。これで中国勢の優勝は5回目だ。最後はスカツとした勝ちをした一局をご紹介しよう。井上君にとっては唯一の勝ちなのだが、こういう打ち方を毎回してくれれば成績も上がってくる。



黒 井上 白 Lee (韓国)  
黒 47 にて白投了

疎星白4黒5は大変珍しいが、実は前回の世界戦でも登場している。黒9で10に打てれば良いが、それはすぐ三々禁になる。そこで黒9だが、白10で混戦になる。黒は早めに外回りに打ち、最後は右辺で勝ちを決めた。

WTの藤田さん含め、日本選手はよく頑張ったと思う。2年後はどこでやるのかまだわからないが、本大会以上の成績を期待できると感じた世界戦だった。